

自分の考えを進んで表現する児童の育成

指定校 1 年次 麻績村立麻績小学校 井堀路彦

I 本校の新聞活用，NIEの現状

本校は全校児童105名の小規模校である。農村部であり，祖父母と同居している家庭も多いはずであるが，新聞を購読していない家庭も何軒かある。今年もNIEの研究指定校1年目である。新聞を授業にどのように活用できるのか，手探りのような状態から始まり，新聞を活用した授業に各学年で取り組んだ。重点研究の「国語科」「社会科」の各グループにおいて，子どもの力を伸ばすために「新聞の活用場面」を考え，研究を行ってきた。

II 実践のねらい

- 1 調べたこと考えたことを自分なりの言葉で表現する子。【社会科】
読み取ったことや感じたことを伝えるために表現する子。【国語科】
- 2 相手意識を持った表現ができる子。【社会科・国語科】
- 3 友と共に自身の見方考え方を広げられる子。【社会科】
交流活動を通してものの見方や表現方法を広げられる子。【国語科】

III 研究の概要

1 環境整備

新聞に親しむ機会をより多くしたいと願い，昇降口に「新聞コーナー」を設け，新聞が自由にみられるようにした。また，壁面には教師が作った，スクラップ記事壁新聞を張り出したり，各学年で社会見学などのまとめで作成した新聞を掲示したりした。朝，登校してくると新聞コーナーに行き新聞を読む児童や壁に貼ってあるものを読みふける児童が見られた。



2 各学年の取り組み

できる限り各学年で新聞を活用した授業に取り組もうと新聞活用の場面を考え，実践を行った。

(1) 2年生の取り組み

○国語「新聞を読もう」 【新聞で学ぶ】

新聞を読み，記事を選んで記事の内容の大事なことを友だちに伝える授業。児童は短時間であったが自分なりに記事の内容をつかんでいた。友だちの発表を聞き取ろうととてもよく聞いていた。2年生であってもある程度，写真と記事から内容を読み取れることが分かった。

(2) 4年生の取り組み

○スクラップブックの活用 【新聞で学ぶ】

信毎よりいただいたスクラップブックを使い，気になる新聞記事をスクラップし，日直当番の時に発表してきた。新聞を読む機会が少なかった子も読む機会が増えた。見てもらいたいという気持ちから選ぶ記事も多彩になってきている。コメントも最初はかんたんなものだったが，少しずつ内容が深まってきた。

○社会科「見学新聞作り」（全校公開授業）【新聞作り】

新聞作りの出前授業を依頼し、新聞の作り方を学び、清掃工場見学の新聞作りを行った。ゴミの減量について、自分なりの解決法を考案し、取り組んだ様子を新聞にして発表を行った。減量の方法を新聞にすることで、自分の考えと取り組みの結果、考察をわかりやすくまとめ発表することができた。

(3) 5年生の取り組み

○国語「新聞を読もう」 【新聞を学ぶ】

新聞の見出しが新聞社により違うことを理解した。新聞を読み、気に入った記事を選んで記事の内容に自分の感想や考えを書く授業を行った。興味関心のある内容の記事を選ぶ児童が多かった。そのため、自分なりの考えを書くことができた。新聞記事を選定することに時間がかかったが、繰り返し行うことで記事選びにも時間がかからなくなった。課題を絞る方が内容にも共感できることもわかった。新聞を読む児童が増え、語彙が増えた児童もいた。

○斜面の書き写し 【新聞で学ぶ】

斜面書き写しノートを使い、斜面を書き写す活動を家庭学習中心に行った。書くスピードが速くなってきたり、文字を書くことに抵抗感のあった児童も書くことに抵抗がなくなってきたり、社会の出来事に関心が持てる児童も増えてきたりした。

○社会「新聞の作られ方」 【新聞を学ぶ】

社会の情報の学習の一環として新聞の作られ方について出前授業をしていただいた。テレビや新聞やラジオといった情報の作られる過程について教えていただいた。情報を鵜呑みにするのではなく、自分自身で判断するというメディアリテラシーや新聞の役割を学ぶ機会になった。

(4) 6年生の取り組み

○斜面の書き写し 【新聞で学ぶ】

斜面書き写しノートを使い、斜面を書き写す活動を行った。朝ドリルの時間や、家庭学習で行ってきた。はじめは写し間違いなどがあった児童も間違いがなくなり、10分間で書ける量が増えてきた。文字を書くことに抵抗感のあった児童も書くことに抵抗がなくなってきた。書き写すことを中心として行っているが、自然と記事の内容にも目がいき、話題になっている社会のことも目がいくようになってきた。

○気になった新聞記事の発表 【新聞で学ぶ】

日直当番になった児童が朝会の時に、気になった記事を切り抜き、お家の方のコメントと自分の考えを発表した。中にはパターン化してしまっていて同じ傾向の記事を選んでいる児童もいるが、みんなに伝えようといろんな記事を読み、記事を選んでコメントを書く姿見られるようになってきた。コメントの内容も最初に比べ、自分の考えや思いを入れた内容を書けるようになってきた。

○新聞作り（出前授業の活用） 【新聞を作る】

新聞作りの方法を新聞社の方に教えていただいた。一番伝えたいものを書くことや伝わるためには5W1H等も大切であることがわかった。新聞作りの手法、伝えたい内容を書き出し、内容を選び出し、順番を考え、まとめていくという手法を、国語の授業で解説文の作成にも生かすことができるのではないかと考えた。

【研究テーマ】

児童が読み取ったこと感じたことを伝えるための、表現力を高めていく支援はどうあったらよいか。 ～ 相手意識を持たせながら ～

(1) 単元名「校内美術館を作ろう」

教材名『『鳥獣戯画』を読む』 高畑 勲 作 「この絵、わたしはこう見る」

(2) 単元展開 (全 12 時間)

次	時	学習活動
第 1 次	1	①『鳥獣戯画』を読むという題名から、絵を読むとはどういうことか考える。 ②校内に自分の解説をつけた美術館を作ろうという目標を持ち、絵の読み方を学ぶ目標を持つ。 ③学習課題を確認する。
第 2 次	2	① P144 に示された視点に沿って文章を絵と対応させながら読む。
	3	②絵に対する筆者の評価に対し、自分の考えや感想をまとめる。
	4	①表現や構成の工夫点をまとめる。
第 3 次	5	①絵を見て自分なりの見方で絵を評価する。
	6	②評価したことを交流し、交流したことをもとの評価に付け加える。 わかりやすい文の書き方、効果的な見出しの付け方。 麻績小紹介新聞作り (総合的な学習の時間・出前授業)
第 4 次	7	①『この絵私はこう見る』を読み、学習課題をつかむ。
	8	②アンリ＝ルソーの作品について感想を発表し、教科書の説明から鑑賞文の内容を確認する。
	9	③自分で絵を選び、その絵から読み取ったことを整理してまとめる。
	10	①前時で整理したことをもとに、表現や構成を考える。 ②読み取ったことや感じたことを、みんなに伝えるように解説文に表す。
第 5 次	11	①たがいに読み合っ、絵の見方や表現の良さを伝え合う。(本時)
	12	②交流したことをもとにしてみんなに伝えるように文章を推敲する。



(3) 本時案

① 主眼

みんなに読んでもらえるように自分の選んだ絵についての解説文を書き、見出しをつけた子ども達が、グループの他の人たちとお互いの書いたものを読みあい交流する場面で、他の友だちの見方や表現の自分と違っている点や工夫されている点について認め、伝えることを通して、他の友だちからよいところを学び、自分の見方や表現の仕方を広げることができる。

② 本時の位置 (12 時間中第 11 時)

前時…絵から自分が読みとったこと、伝えたいことを文に書き、見出しをつけた。

次時…他の人から自分が認められたことや助言，他の人から学んだことをもとによりよい文になるように推敲し完成させる。

③ 留意点

絵の見方には色々な見方があり，ひとつには決められないことを押さえておき，色々な見方を受け入れさせるように気をつける。

④ 学習の展開

過程	学習活動・予想される児童の反応	教師の支援・評価	時間	備考
課題把握	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【学習問題】 自分の解説文をよりよいものにしよう。</p> </div> <p>○今日は自分の解説文をよりよいものにするために，みんなで交流してお互いの文を読み合っ て，友だちからたくさん教えてもらおう。</p>	<p>○自分の文を読み返す。 ○文を書く前のアイデア表を並べて。</p>	10	アイデアカード
／	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【学習課題】 お互いの文を読み合っ て，見出しの付け方，友だちの見方のよいところや，表現の仕方のよいところを見つけて，自分の文章をよりよくするための参考にしよう。</p> </div>			
課題追究	<p>○お互いの文をグループの中で読み合う。(4人・5人×2班)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A さんの見出し，すごくわかりやすい。 ・この書き出しは読みたくなるように工夫されている。 ・B さんの表現，表情を細かく見ているすごいな。 ・C さんは色づかいに注目しているんだ。 ・自分のはどんなところに線が着いてくるかな？ <p>・D さんはこのことをもっと細かく書くとわかりやすくなるかも。</p>	<p>○まず見出しを読み，どんなことを一番言いたいの か，予想してから読み始めていくように指示する。</p> <p>○良いところや参考になり そうな見方や表現を見つけたら，線を引きどんな ところがいいと思ったか， いいねふせんに書いてワ ークシートに貼っていく ように指示する。</p> <p>○読み終わったら次の人の 文を読むように指示す る。(5分程度)</p> <p>○こうするともっとよくな るよというアイデアや 助言があったら，「アドバ イスふせん」を作る。</p>	20	いいねふせん アドバイスふせん
	○グループ内で友だちの文章と自分の文章を比べて，作品の見方のいいところ，自分と違う	○他の人の解説文を読んで作品の見方や表現につい	5	

／ 終 末	点，文章の工夫について感想を交流する。	て，グループ内で感想を 発表しましょう。	7	3
	○他の友だちの自分への評価や，他の人の見方や表現でいいなと思ったことを思い出してみ て，ワークシートに参考にしたいところを書 く。 ○次回推敲するときに参考にしたいことを発表 する。	○他の人の解説文で見つけ たいところをできるだ け具体的に書いてみま しょう。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> <p>〈評価〉 お互いの文を読み合っ て，他の人のものの見 方や表現方法のよさ や工夫に気づき，自 分の表現や見方を広 げることができた。</p> </div>				

⑤ 授業を見てもらう観点

○お互いの文を読み合い交流する場面で，見方や表現のよいところに付箋をつけたり，アドバイスをするとところに付箋をつけたことが，友だちのよいところを学び，自分の見方や表現の仕方を広げることにつながったか？

○新聞の作り方を学習したときに使ったアイディアカードを利用し，自分の考えをまとめ，整理して解説文を書いたことは，相手意識を持ち，伝えるための表現力を高めていくことに有効であったか？

※新聞作りの出前授業でいただいた新聞作りアイディアカードの形式を踏襲した解説文アイディアカード

4 授業記録と考察

指導者	児童の様子	考 察
<p>○今日は，よりよい文章の解説文にしようという勉強です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞を作ったときのアイディアシートを使って文章を書きましょう。 ・読み合っ てよいところを見つけ，参考にしま よう。 <p>○学習課題をみんな で読みま しょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指示をしっかりと聞いている。 ・声を出して，学習課題を読む。 	

○書き出しや文末表現の工夫をグループで読み合って、たくさんよいところをさがしましょう。→プリント配布

・教師の解説文を提示する

○「こんなところがいいね。」と具体的に書いて、わかりにくいところは、アドバイス付箋に書いてください。

・見出しを見て、どんなふうに書いてあるのか想像してから書いてください。

○だれのどれを参考にしたいですか。メモしておいてください。



○この人の紹介したいというのがあったら、手を挙げて。

○ここを読んでください。

・各自、自分のものを直す。

1枚目

T：まがりくねったをすごく感じられるね。

R：表現がいいね。

Y：それぞれちがうところが伝わっている。

S：木のちがいや寒いのかあたたかいのかわかっていいね。(しばらくして)雲がいっぱいあるという所で雨が降り出しそうだと予想していいね。

H：人の動きやポーズに着目してていいね。

2枚目

T：主役のひまわりを見ていて(しばらく考え)オレンジの他にも色をつけていていいね。

R：モナリザをよく観察してていいね。

H：星にも目をむけてていいね。

S：細かいところまで目をむけているところがいいね。叫んでいる人にも注目してていいね。

Y：季節の動きを予想しているところがいいね。書き出しの効果音がすごくインパクトがある。

3枚目

S：背景にまで注目してオーロラを感じているところがいいね。

Y：自分の気持ちが書けてていいね。

H：バックにも目をむけてていいね。

R：数まで数えてていいね。とても細かい所まで見てていいね。

T：山を見ていてマグマを見つけるなんて細かくみているね。

4枚目

S：かげのところまで見てていいね。

Y：黒い物を闇の炎と表現してていいね。家の屋根にまで着目するなんていいね。

T：すごくいい表現だね。不思議な世界を感じられる。

H：じっくり見ていて、ひまわりの本数まで書いてあっていいね。細かくひまわりを

初めは、表現がいいね。としか書けなかったが、2枚目になると前に書いた人の表現を見て、より内容の深い「いいね」が着けられるようになっていった。

一つ一つ文章の内容が表現を工夫し、何を伝えたいのかが分かりやすい文章だったため、アドバイスふせんもつけやすく、ふせんを見てまた表現が深まっていった。

本時のねらいでもある「音の表現に気づき自分も取り入れたいと願う姿」が見られた。

見ていていいね。

T：Hさんがボカンと音を表現していて良かった。

Y：Sさんが色の違いに目をつけている。

H：木のみどりから季節を判断していて良かった。

T：「さあ、いよいよ次回は推敲してよりよい文章にして清書です。すてきな文をつけて、麻績小学校美術館を作れるといいですね。」を読む。

本時より前に子ども達は、他校の子ども達に自分の学校の行事を伝える新聞づくりを行い、その際信毎の方に来ていただき教えていただいた。見出しの付け方や記事の書き方を学ぶことができた。そして本時では絵の解説文を書くという活動に取り組んだ。しかし解説文は絵から読み取ったことを表現するため、新聞を書くのとはまた違う面があり、どのように新聞づくりで得たものを生かしていくか迷う面もあった。しかし突き詰めていくとどちらも「自分が伝えたいことを、どのように分かりやすく相手に伝えるか。」が大切であることには変わりなく、新聞づくりで学んだ、何を伝えたいかをもとに文章を書いたり、見出しをつけたりしていくことが、今回の授業でも、生かされたように思う。



本年度の成果と課題

○成果

①新聞の活用

・新聞コーナーの設置や新聞の活用の試みを通じて、新聞に関心を持つ児童が増えてきた。新聞記事のことを話題にする児童が見られた。視野も広がっているように思われる。

・新聞を授業にどう生かせるのかということで研究を行った。それぞれの学年に応じて扱ってみた。それぞれ有用性が見られた。学年の発達段階に応じて内容を考えていけば、どの学年でも新聞活用が効果的にできることがわかってきた。新聞づくりをいろんな形で応用できることも見えてきた。

②自分の考えを進んで表現する児童の育成

・国語科の授業においては主として表現のための素地力を育てる教材として、新聞の活用ができるのではないかと、いろいろな場面で活用してきた。新聞のコラム「斜面」の書き写しや、気に入った記事にコメントを付ける等の活動を継続的に行うことで、書く力、語彙の習得などができることがわかってきた。新聞と解説文と内容的には違うが、思いを伝えるための構成や表題や表現方法が有効であることがわかった。新聞づくりで学んだことが子どもたちの良い見本となり、読み取ったこと感じたことが効果的に伝わる文章構成を考え、思いを伝えるための表現力がのびてきた。

・社会科の新聞作りでは作文が苦手な児童や普段の授業で感想を書くときになかなか書き出せない児童が、新聞作りの出前授業を受けたり、新聞作りを重ねたりする事で、新聞作りへの苦手意識が解消され自分なりの表現をすることができた。毎日の生活記録の内容も、表現が的確でわかりやすい文章になってきている。

○課題

- ・学校全体で新聞を活用した活動を継続的に行っていく環境を作っていく必要がある。
- ・学年ごとにつながりを持たせ、系統づけた活用方法を研究していく必要がある。
- ・新聞の購読状況や扱い方によって家庭学習や授業への位置づけが難しい面もある。良い活用法を探っていきたい。
- ・新聞は内容が幅広く、国語の教材として取り上げるには多様すぎる。新聞社から教材化したものが配信されてくるのを利用するなど教材研究を行いたい。
- ・教材化した新聞によってどんな力がつくのか決めだすことが難しく、ついた力を評価する必要がある。